

(記載例)

令和〇年度 さが未来アシスト事業費補助金実施計画書(市町用)

市町名		市町担当者氏名		電話番号	
事業実施団体 (助成事業の場合は、助成先)					
事業名					

1. 対象地域における人口減少の状況

地域名	申請地区			市町全体		
	H27.10	R2.10	増減率	H27.10	R2.10	増減率

2. 事業実施団体の現在の活動状況(※市町直轄事業の場合には、関係するCSOの活動実績を記載)

【活動目的及び活動内容】

《活動目的》
どのようなことを目的に活動している団体が記載すること。

《活動内容》
課題解決や目的達成のためにどのような活動を行っているか記載すること。

【佐賀県又は地元市町(行政)との協働実績(※該当がある場合にのみ記載)】

【活動内容や決算・財務の状況を紹介しているURL(※ある場合にのみ記載)】

3. 補助事業の目的

当該補助金を活用して実施したい事業は何を目的として実施したいのか記載すること。

4. 事業内容

※いつ、どこで、誰が何をどのように実施するか記載すること

《時期》

令和8年〇月〇日

《場所》

〇〇〇〇

《実施する内容》

〇〇〇〇〇〇〇〇

5. 予想される成果・効果

※成果や効果の測定方法を記載する等、できるだけ客観的な記述に努めること

《事業の実施後の成果・効果》

子ども達に〇〇地区の良さを実感してもらうために〇〇のコンテンツを含む、イベントを開催する。イベント参加前後で比較し、子ども達が「〇〇地区を良いと思う」割合が〇%増える。

《成果・効果を客観的に評価できるような測定方法》

来場された子ども達にアンケートを実施し、地域の良さを感じてもらえたか評価を行う。

(測定方法の例) 来場者アンケート調査、満足度調査、来場者数、売上実績

6. 担い手の育成・参画・確保につながる取組内容

※5年10年と事業を継続するにあたっての課題や将来でてくる課題にそなえた計画を記載すること

【担い手に関する現在の課題】

現在の団体の構成員は高齢者が多く、会員も少ない。今後もイベントを継続していくためには、若い世代を中心とした広い世代の参画が必要であり、課題である。

【今年度取り組む予定の内容及び予想される効果】

地元の中学校、高校に対して、当日の運営ボランティアの募集を行い、若い世代の関心を向けさせる。

また、地元企業へ参画の依頼を行い、地区全体で地区を代表するイベントに育てていくという機運を高める。

7. 補助金活用後の収入確保につながる取組内容

※どのようにしてどの程度の収入を継続的に確保して事業を継続するか記載すること

イベント開催時に自団体の広報ブースを設け、会員数の拡大を図る。

また、近隣の企業、団体等にブース出店の働きかけを行い、出店料、協賛金を募る。

収入の例) 会費、協賛金、出店料、入場料、ふるさと納税、クラウドファンディング 等

《R8年度》

・会員数 10人(会員一人あたり2,000円) ・出店数 5件(出店料1件あたり10,000円)

・協賛企業、団体数 5件(協賛金1件あたり50,000円)

《R9年度》

・会員数 15人(会員一人あたり2,000円) ・出店数 7件(出店料1件あたり10,000円)

・協賛企業、団体数 7件(協賛金1件あたり50,000円)

《R10年度》

・会員数 20人(会員一人あたり2,000円) ・出店数 10件(出店料1件あたり10,000円)

・協賛企業、団体数 10件(協賛金1件あたり50,000円)

《R11年度》

・会員数 25人(会員一人あたり2,000円) ・出店数 15件(出店料1件あたり10,000円)

・協賛企業、団体数 15件(協賛金1件あたり50,000円)